

《区分 ICTを活用した分野》

(サブタイトル)DX推進リーダー養成プログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容:①レクチャー:必要となる知識の習得・理解、②ケーススタディ:ケース教材とディスカッションによる要諦の理解、③ワークショップ:自社におけるDXの現状把握、他社との対話を通じた課題と解決策の検討という3つのステップで、DX推進に必要な要素と要諦を学ぶ。

訓練の対象となる業種・職種等:これからDX推進のリーダーを担う方、業種・部門などは問わない。「DXの推進(事業の変革)」と「DXの環境整備」を並行して推進できる人材の育成を目指す。

(受講のメリット)

- DX推進に必要な知識を習得する。
- DX推進のためのポイントを理解し、「自社における今後のアクション」を取りまとめることができる。

(実施した時の環境等)



訓練の内容: DX推進リーダー養成プログラム

募集期間 :10月8日~11月26日

応募人数 :20人

受講人数 :23人

受講日時 :11月27日~2月20日 (10:00~18:00)

受講料 :実証実験のため無料

社会人受講生のための配慮:

社内で利用できるように、開催毎に利用資料や成果物を共有した。

《区分 ICTを活用した分野》

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容:

特にケース研修では、ケースとなった企業への深い理解と、講師自身の経験に根差した指導が有効である。

訓練時間数: おおむね現状どおりでよい。

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

- ケース研修時に、可能な範囲でケースの題材となった企業の責任者に同席していただくことが望ましい。ケースに付随する周辺情報や条件についてより深い学びを得ることができる。
- 参加者同士の交流: 講師や教材から学ぶだけでなく、参加者同士の気づきや経験の共有、今後のつながりが重要である。交流を促進するための交流会なども有効である。



(受講者等からの声)

- ・DXを推進する上での知識を体系的に学べた。
- ・自社のDXを考えるきっかけとなり、他社の課題や取り組みも知ることができた。
- ・ケーススタディから事例を学び、ワークショップを通じて深掘りができる。
- ・参加者と相互に刺激を受けることができる。

(受託事業者) 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会

(詳細・問い合わせ先)

厚生労働省HP: URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/program_development_text.html#ICT
厚生労働省人材開発統括官付参事官室(人材開発政策担当)政策企画室事業係 03-5253-1111(内線5648)